

(中間C)

評価分科会総合評価

研究課題名：東海地震予知技術と南海トラフ沿いの地殻活動監視技術の高度化
に関する研究

評価分科会（地震火山分野）

分科会長：古川信雄

委員：小泉尚嗣、田中正之、泊 次郎、渡辺秀文

評価年月日：平成24年2月9日

1. 総合評価

- (1) 継続の可否 継続 中止
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

本研究課題は、地震・地殻活動の監視技術の高度化及び地震発生シミュレーション技術の高度化を行うことで、近い将来の発生が懸念されている東海・東南海・南海地震の短期的予測につなげる社会的意義の非常に高い研究であり、地震発生メカニズム解明にもつながる科学的意義の高い研究でもある。

研究の進捗は概ね順調であり、概ね成果も出ていると評価できる。地震発生シミュレーションについては、モデル領域を東南海・南海の震源域まで拡張して東海・東南海・南海の連動地震を対象にしたことは非常に評価できる。特に、南海トラフ沿いの巨大地震発生と東海地域および豊後水道のスロースリップをシミュレーションで再現できたのは大きな成果である。

今後は、東北地方太平洋沖地震の経験を踏まえ、今回東北で観測された現象（例えば、前震があったこと、前震活動において本震震源に向かうような震源の移動が認められたこと、本震前にゆっくり滑りの加速化が検出されなかったこと、余効変動が観測されたこと）について説明できるシミュレーションモデルを構築し、地震発生を短期的予測に貢献することが望まれる。科学的に多くの困難を伴う問題であるが、提案された研究計画に従って、モデルの更なる改良、モデルパラメータの最適化、それらの検証などに注力し、東海・東南海・南海地震の予知技術の向上に寄与することが強く求められる。

なお、「地震活動評価の高度化」については、特定の地域を対象にしたものではなく地震活動一般を対象にしているように見えることから、本研究課題の主旨に沿って、東海・東南海・南海地域に重点をおいて研究を進めていただきたい。